

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	MIRAI KODOU 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和8年2月20日		～ 令和8年3月2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	令和8年2月20日		～ 令和8年3月2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	看護師の在籍が多く、幅広い医療的ケア児の受け入れが可能である。	定期的に看護師会を開催し、ケース情報の共有、医療的ケアの共有、ヒヤリハット・インシデント報告の共有及び対策等を行っている。緊急時対応法や心肺蘇生の勉強会を定期的で開催している。外部研修の参加も行っている。	日本赤十字社主催の幼児安全講習会の受講を予定している。急変時の対応についてシミュレーションを多職種も交えて定期的に行っていく。外部研修の参加を積極的に行っていく。地域の連絡会で事例の発表を行い、症例検討や症例の共有を地域の場で持っていく。
2	理学療法士の在籍により、個別的、継続的な機能訓練を行う事ができる。運動感覚面の支援でも理学療法士の視点から運動プログラムを作成している。	理学療法士会を定期的で開催し、症例検討や施術方法の向上を図っている。安楽な体位など他職種への指導も行っている。	児童と保護者とも目標を共有し、生活面で役に立つリハビリを提供していく。他リハビリ施設の見学や情報共有を行っていく。外部研修の参加を行っていく。
3	保育士、児童指導員、教員、理学療法士、看護師等の視点を取り入れた療育の提供が可能である。看護師の在籍により医療的ケア児の外出も可能な限り行い、地域での交流を促している。	季節の行事、イベント、制作に力を入れている。柿の葉寿司作りやかき氷作りなどを通して、季節の食や郷土料理に触れる機会をもてるよう取り組んだ。医療的ケア児、肢体不自由児のお子様も可能な限り、外出の機会を設けている。(公園、イオンモール、図書館等)他施設との交流も図っている。クリスマス会では保護者の方の参加していただきスタッフや他のご家族同士の交流が深められた。	保護者会の開催、保育園訪問など企画していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会の開催ができておらず、保護者同士の交流の機会を十分に設けられていない。	イベントへの保護者参加のみでは、保護者同士の深い交流の場には至っていない。保護者会の希望のニーズの把握も不十分である。	保護者会のニーズの確認や集まれる日程調整、保護者会の企画を行い、保護者同士の交流の場をもうけていきたい。
2	各種マニュアルの更新中で、スタッフや保護者への周知が不十分である。	各委員会は年2回開催されているが、内容の周知が直接支援業務や職員の公休等もあり全事業所のスタッフに行き届いていない現状がある。	各種マニュアルの更新に力を入れ、全職員がマニュアルを周知し、HPなどにおける事でご家族にも周知できるといいと考える。
3	定期的な面談や子育てに関する助言等の支援が不十分であった。	半年に一度のモニタリング、計画書説明時や送迎時等に保護者の方の思いを傾聴するにはしているが、お会いできない保護者の方もおられ適切な時期にニーズ確認や子育てに関する助言が行えていない可能性がある。	モニタリング時期の前に、保護者にモニタリングシートを記入してもらい利用ニーズの確認や、保護者や児童の抱える思い、状態や環境の変化等をお聞きしてアセスメントを行い、個別支援計画に反映させていく様にする。